



羽田、始まる

文/写真提供：畑尻 郷 (近鉄インターナショナル シカゴ支店)
 協力：近鉄インターナショナル シカゴ支店

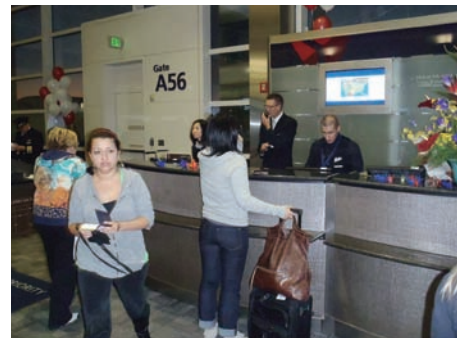


1-800-654-4090
 japandesk.CHI@kintetsu.com
 www.kintetsu.com/jp/chil

2月19日、ついにデルタ航空がアメリカ中西部デトロイトから羽田への直行便を就航させた。いつもそうなのだが、やはり新規就航便というのは心が躍る。しかも今回は私の地元へのフライトなので、その興奮も一層高まる。早速、航空券を用意してこのデトロイト→羽田就航便に乗ってみることにした。

デルタ航空 627 便、デトロイト発夜7時半というスケジュールは日本行きにまた新しいチョイスを与えることになった。いままでも日本行きのフライトは午前中か、遅くとも午後2時くらいまでが一般的だった。そのため日本里帰りにはその日の仕事は休みというのが定番だったが、出発の遅い羽田便を使えば、1日の仕事を終えて、空港に向かうというチョイスもできる。また乗り継いでくる便はデトロイトに6時半くらいまでに到着の便で可能なので、中西部の多くの都市から午後発というゆっくりしたスケジュールを組むことができる。例えばシカゴ発なら午後4時の出発でも十分可能だ。

羽田線の機材は747-400のジャンボ機を使用している。最近アメリカでは機材の小型化が顕著なので、空港である大きな機体は見かけなくなりつつあるが、やはり私の世代は国際線というあのマグロをイメージさせるジャンボ機はなん



となく落ちていってしまう。大型機はなんと言っても、その座席数は魅力だ。全部で400席近くあるため、繁忙期でも座席の確保がし易く、一席の単価も安くなる計算だ。エコノミークラスの3-4-3の座席配列も家族向けにはありがたい。

夜出発の便で実は私が楽しみにしていることがある。それは機内からの「極光(オーロラ)観測」である。デトロイト発、羽田行きはアラスカ上空から北極圏にかけて広く飛ぶことができるので、多くの場合、いわゆるオーロラルゾーン(オーロラがよく発生する場所)を通過する。ちょうど飛行機の右舷が真北に向き、アラスカを過ぎて飛行機が南に向かって機首を変えるまでの勝負になる。私が搭乗した日は十六夜で月の光が強かったのだが、妖しくゆらめく緑色のカーテンを地平線に広く観測することができた(オーロラは通常、暗いものなので、写真が撮れないのは残念だが...)。今年がオーロラ発生に重要な太陽からの電磁波(太陽風)が強くなる周期に当たっており、かなり豪快なオーロラを観測できるチャンスが高い。通常、地上でオーロラを見るときは極寒の中、何時間もオーロラ出現を待たなくては行けないが、飛行機で酒でも飲みながら窓から眺めるオーロラはまさに極みの瞬間である。是非、座席は右舷の窓側にしてみることをお勧めする。

冬場の羽田便は羽田に着くまでずっと夜なのだが、地平線を見ると、ぎりぎり夕暮れの時間帯を通過することがある。もやっと明るくなっている「青い光の夕べ」も北米夜発のフライトの楽しみかもしれない。いつもと違った楽しみかたを満喫するのも楽しい。

羽田着は23時(夜11時)である。よく質問がでることで、空港内施設の営業時間がある。確かに閉まっている店もあるが、CITI BankのATMや円への両替をするための銀行窓口は営業している。またスーツケースを送るための宅配

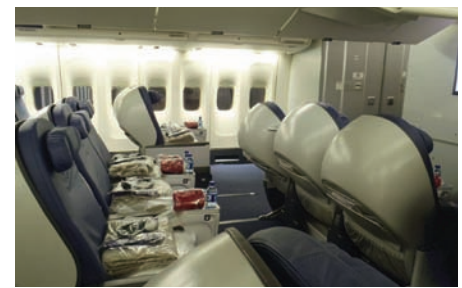
カウンターもちゃんと営業しているので問題ない。ただJR Passの引き換えがこの時間だとできないのが残念だ。折角JR Passが東京モノレールに使用できるようになったというのに、これは正直なところ、利便性を少し考えてもらいたい。

また多く聞かれる質問で、遅い時間での都内への公共交通機関のアクセスがある。深夜でも山手線の沿線までであれば移動の方法は色々でできるので、迷っても移動することをお勧めする。ちなみに羽田空港発浜松町行きの最終モノレールは25:10発(午前12時10分)で、イレギュラー(遅延や通関でのトラブル)が発生した場合は別だが、羽田空港着23時着でも普通は十分間に合う。

エアポートリムジンバスは各方面へ25台(午前12時)の出発を増発しており、普通に都内のホテルへ行く場合は殆ど問題ない。しかも赤坂方面で1,100円、恵比寿周辺だと900円なので、成田に比べるとこの都内へのアクセスは時間のみならず、経済的にもかなり抑えられる。それでももし万が一、バスや電車で間に合わないようなことがあったら、都内のタクシーで最近、始まった「羽田フラットレート」はかなり有効だ。新宿付近までで7,000円(通常推定10,000円程度)の均一レートで、しかも都内は深夜なので道も空いているので思いのほか早く目的地に着けるのも魅力だ。

羽田空港周辺のホテルは羽田エクセルホテル東急やホテルJALシティー羽田などがある。これらは翌日空港からどこかへ出発する人にお勧めだ。次のチョイスとしては、浜松町周辺(ザ・プリンス パークタワー東京、チサンホテル浜松町)や品川(品川プリンスホテル)などが一般的だが、モノレール沿線(太田市場や大井競馬場あたり)や京急沿線の蒲田周辺のホテルは少し便が悪くなるものの、値段が安く泊まれるのは魅力だ。またホテルによっては無料シャトルバスを出しているところもある。

復路の羽田からデトロイトに戻るフライ



トは出発が午前6時55分でこれまた、公共交通機関が動いているか微妙なところだが、エアポートリムジンバスの早朝便で羽田空港到着午前5時半前後が大増発されている。都内のみならず首都圏全般からの運行が設定されたので、これを是非利用していただきたい。ちなみに赤坂、恵比寿付近からは午前4時半ごろの出発だ。タクシーのフラットレートはもちろんあるが、ここで気をつけなくては行けないのはこの会社も24時間前までの予約が必要であるということだ。流しのタクシーを捕まえて、「羽田まで!」とやると通常料金に深夜料金が加わって、7,000円ではすまなくなるので注意が必要だ。

羽田空港国際線ターミナルの免税店は早朝からしっかり営業しており、ラストスパート・ショッピングも問題ない。国際線ターミナルは24時間体制のレストランもあるので、空港で全くなにもできないことはない。ちなみに免税店で雑誌を買ったのだが、なんと雑誌も免税になるのにはびっくりした。なんかうれしい5%オフである。

まだまだ始まったばかりの羽田国際線ではあるが、一般に「今後も大いに利用価値が高まるのでは」との見解である。利用客が増えれば、すこし厳しいところのある交通機関の整備や、空港内施設の営業時間なども改善されるのではないと思われる。是非どんどん利用していただき、羽田活性化を図っていききたいものである。